

五戸総合病院での研修を終えて

令和 6 年 11 月研修医

大阪公立大学医学部附属病院 初期研修医 丁子隼也

この度、令和 6 年 11 月に五戸総合病院で地域研修させていただきました丁子隼也でございます。人生初めての青森での生活や紙カルテの使用など慣れない環境で仕事をするのに苦労しましたが安藤先生を含む諸先生方、医療スタッフの方々、越後さんを含む管理課の方々ののおかげで 1 ヶ月間過ごすことができました。誠にありがとうございます。

まず、青森に来て思ったのが、いきなり冬になったなと思いました。大阪では、半袖に何か羽織るだけの服装で過ごしていましたが、青森についてからヒートテックに長袖、コートの服装になったため、今年は秋を感じずに終わるなと思いました。

五戸の町に到着し、町民の方々がとても親切な方が多いと思いました。前乗りした日にたまたま道で出会った時に、挨拶をしていただき、病院周辺の店の情報を教えていただきました。そのお陰もあり、この一ヶ月間に海鮮や馬肉、メキシコ料理を堪能することができました。

病院での仕事に関しては、患者さんの治療方針や退院に向けての計画を立てるのが非常に楽しかったです。普段私は、自分が考えるよりも先に先生方が上記事項を決定していることばかりで、非常に受け身な初期研修をしておりましたので、ここでの研修ではわからないことばかりでした。しかし、周りのスタッフの皆さんの助けもあり、なんとか仕事をこなしていきました。

退院調整や治療方針をしていく中で、DNAR 希望の方や緩和治療方針の方に出会いました。研修当初は医学的な正しさだけで方針を考えがちでしたが、日が進むにつれて、患者さんや家族の気持ちや価値観を考えるようになりました。「医学的な正しさは何か」ではなく「患者さんが最も必要としているのは何か」を考えるようになりました。

来年、自分が主体となって患者さんを任せられることもたくさんあり、逃げたくなったり、迷うことも多いと思います。その時は、「自分は一人でなく助けてくれる人がいる」「患者さんが最も必要なものは何か」を思い出し、来年から医師として邁進したいです。